上之郷遺跡発掘調査概要・II

—府営水質保全対策事業泉佐野地区に伴う発掘調査—

1998.3

大阪府教育委員会

はしがき

上之郷遺跡は、大阪府の南部、泉佐野市上之郷に所在する弥生～室町時代の集落跡であります。

泉佐野パイプライン敷設事業は、関西国際空港の関連地域整備事業の一つとして、大阪府農林水産部によって計画、実施されてきました。これは、農道などに用水管（パイプライン）を埋設し、農業用水を常時確保し、地域の農業振興に資するためのものであります。

さて、泉佐野パイプライン敷設事業に伴う発掘調査は今年度で５年目を迎えました。今回、報告する上之郷遺跡の発掘調査は、府営水質保全対策事業泉佐野地区に伴うものであります。パイプライン敷設事業に伴う発掘調査という性格上、調査区は幅約1.2m、延長約500mと狭長なものであり、また現道を開削して調査を実施するため、一度に調査区を設定できないという困難さがつきまといました。しかし、こういった悪条件にもかかわらず、平安～鎌倉時代の溝や土坑などが検出されました。

このような小規模な調査の積み重ねが上之郷遺跡の性格を徐々に明確にするものと考えられます。そして本地域の歴史にとどまらず、日本の古代～中世史を解明していく上でかけがえのない重要な資料になるものと確信しております。

本調査が、関係諸機関及び地元の皆様の多大なる御理解と御協力によって進めることができましたことに、深く感謝の意を表します。今後とも本府文化財保護行政に対して一層の御理解、御協力を賜わりますようお願い申し上げます。

平成10年３月

大阪府教育委員会
文化財保護課長　鹿　野　一　美

例　　言

1．本書は、大阪府教育委員会文化財保護課が、大阪府農林水産部より依頼を受けて平成９年度に実施した泉佐野市上之郷所在、上之郷遺跡の府営水質保全対策事業泉佐野地区に伴う発掘調査事業の概要報告書である。

2．調査は、大阪府教育委員会文化財保護課技師　上林史郎を担当者として実施し、平成９年11月１日に着手し、平成10年３月31日に終了した。

3．調査の実施にあたっては、大阪府泉州農と緑の総合事務所、泉佐野市、泉佐野市教育委員会の他、地元関係者の方々から多大な援助を受けた。記して感謝の意を表したい。

4．本書で使用した標高は、すべてT.P.（東京湾標準潮位）表示値である。

5．本書の執筆については上林があたったが、編集その他については、技師地村邦夫の助力があった。

目　　次

はしがき
例　　言

本　文　目　次

第１章　調査にいたる経過 …… 1
第２章　上之郷遺跡をめぐる環境 …… 2
第３章　調査の成果 …… 2
　第１節　調査の方法 …… 2
　第２節　基本層序 …… 2
　第３節　検出された遺構と遺物 …… 9
第４章　まとめ …… 11

挿　図　目　次

ｆｉｇ．１　泉佐野市上之郷遺跡の位置
ｆｉｇ．２　調査地点位置図
ｆｉｇ．３　遺跡分布図（Ｓ＝1/25,000）国土地理院複製図による
ｆｉｇ．４　調査区位置図
ｆｉｇ．５　基本土層図①
ｆｉｇ．６　基本土層図②
ｆｉｇ．７　出土遺物実測図（Ｓ＝1/3）

図　版　目　次

ＰＬＡＴＥ　上之郷遺跡斜め写真（上が北西）

ＰＬ．１　遺構①　No.４＋25m付近全景（南から）

No.４＋30m付近　落ち込み、ピット（東から）

No.４＋25m付近　溝１断面（東から）

ＰＬ．２　遺構②　No.４＋20m付近　ピット（東から）

No.11付近全景（北から）

No.11＋35m付近　溝３断面（西から）

ＰＬ．３　遺構③　No.11＋30m付近　溝４（北から）

No.11＋30m付近　溝４（南から）

No.11＋30m付近　溝４断面（西から）

ＰＬ．４　遺構④　No.13付近全景（南から）

No.13＋20m付近　断面（西から）

No.13＋25m付近　断面（西から）

ＰＬ．５　遺物①　各遺構、包含層出土土器①

ＰＬ．６　遺物②　各遺構、包含層出土土器②　　瓦器、土師器他

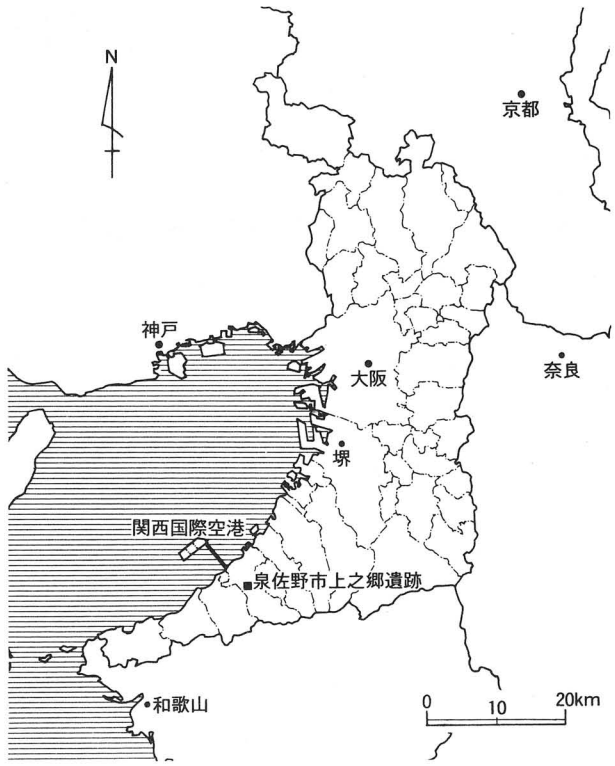


fig. 1　泉佐野市上之郷遺跡の位置

上之郷遺跡発掘調査概要・II

－府営水質保全対策事業泉佐野地区に伴う発掘調査－

上林史郎

第１章　調査にいたる経過

大阪府泉佐野市は、大阪市内から南西へ約38㎞、和歌山市から北東へ約24㎞のところにある。市域は、東西約5.4㎞、南北約13㎞の南北に細長いＬ字状の地形を呈し、その範囲は湾岸部から和泉山脈まで含み、面積は約54.38㎢をはかる。西は大阪湾に臨み、西南部は泉南市及び泉南郡田尻町、北部は貝塚市及び泉南郡熊取町、東南部は和泉山脈を介して和歌山県那賀郡粉河町や同那賀郡打田町に接している。人口は約96,000人をはかり、関西国際空港のお膝元として近年発展し、泉南地域の中核都市の一つになりつつある。地場産業としてタオル製造などがあり、全国的にもよく知られている。また、玉葱栽培を中心とした農業も盛んである。

泉佐野パイプライン敷設事業は、関西国際空港の関連地域整備事業の一つとして、大阪府農林水産部によって計画、実施されているものである。これは、農道などに用水管（パイプライン）を埋設し、農業用水を常時確保し、地域の農業振興に資するという役割を担っている。

さて、上之郷遺跡の発掘調査は府営水質保全対策事業泉佐野地区に伴うものである。パイプライン敷設に伴う発掘調査という性格上、調査区は幅約1.2m、総延長約500mと狭長なものになった。また現道を開削して調査を実施するため、一度に調査区を設定できないという困難さがつきまとったが、こういった悪条件にもかかわらず平安～鎌倉時代の溝や土坑などが検出された。

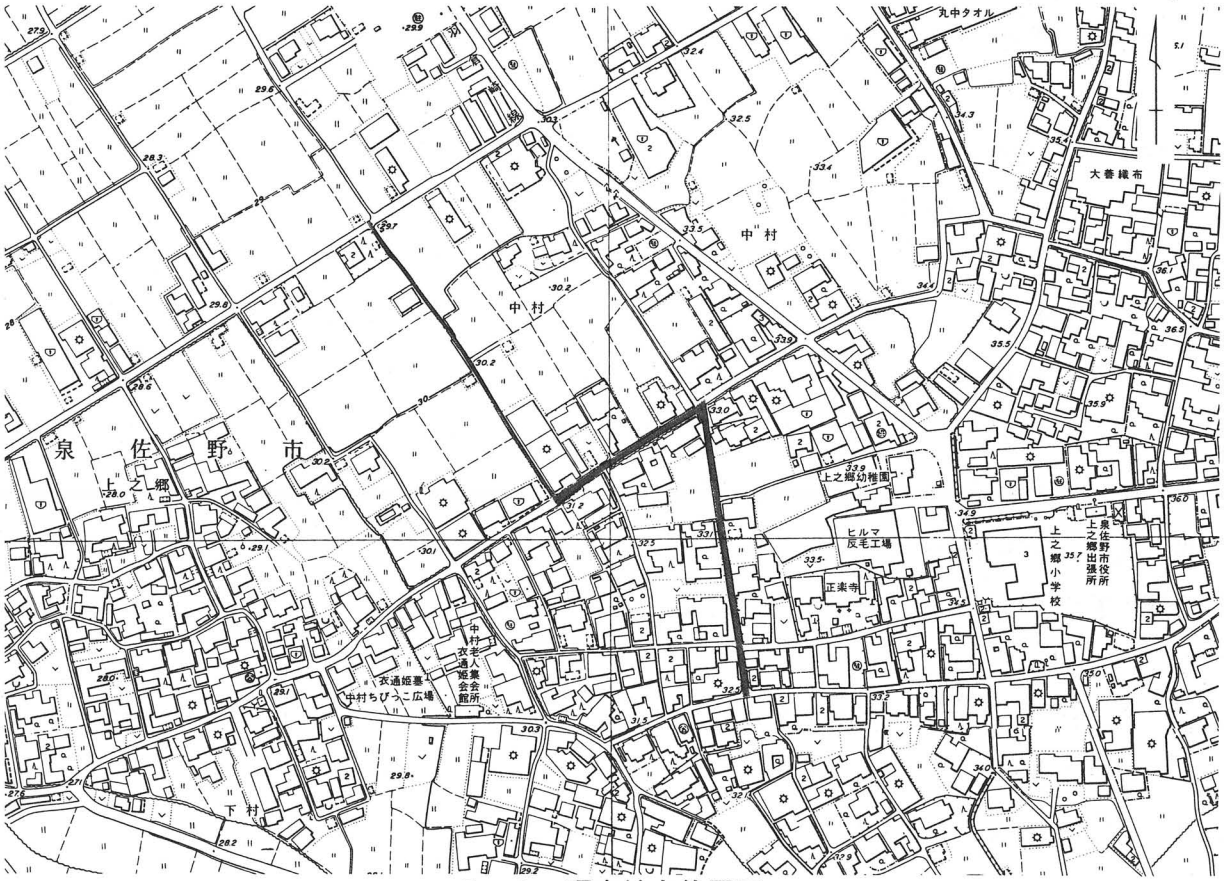


fig. 2　調査地点位置図

第２章　上之郷遺跡をめぐる環境　（fig．３）

上之郷遺跡は、上之郷小学校を中心として、東西約350m、南北約250mという比較的狭い範囲に分布しているが、北東に日根野遺跡、北西に三軒屋遺跡という大規模な遺跡と接している。なお今年度の調査区は、上之郷遺跡と三軒屋遺跡の東南端部にまたがっている。

さて、上之郷遺跡の既往の調査では、７世紀中葉の無袖の横穴式石室が一基検出されている。墳丘及び石室上部は削平されていたものの、周溝の痕跡から一辺約11mの方墳と考えられている。石室は河原石を積み上げたものであり、敷石も遺存していた。石室内部からは須恵器や木棺に使用された鉄釘が出土している。また、上之郷小学校校舎建設に伴う発掘調査では、鎌倉時代の屋敷地が検出されている。大溝で囲まれた方形区画をさらに柵で区切った内部に、南北方向を意識した建物が４棟以上検出されている。大溝が途切れた南辺部分には不規則な柱穴が並んでおり、門の痕跡ではないかと考えられている。さらに、土坑墓が屋敷地内部で検出されており、屋敷墓と呼ばれている。次に、上之郷小学校の東約0.6㎞に位置する関西国際空港連絡道路の建設に伴う日根野・机場遺跡の調査では、室町時代中葉の屋敷地が７ヵ所で検出されている。これら屋敷地は、溝によって長方形に区画され、その内部では溝と軸をあわせた建物や、石組井戸、土坑、厩、墓、土橋などが検出されている。これらの屋敷地群周辺は、日根荘の中心地と推定されており、中世集落の復元や荘園研究にとって重要な資料になっている。

第３章　調査の成果

第１節　調査の方法（fig．２）

今年度の調査区は、ほぼ上之郷集落の道路内に位置し、総延長約500mをはかる。ただ、道路の両側は住宅、商店や工場などが密集しているため、調査を実施できなかった区間も存在する。さらに、調査区が生活道路の内部という性格上、一日のうちに開削、調査、埋め戻し、仮復旧という工程を完了しなければならなかった。そのため、一日で完了できる範囲は幅約1.2m、長さ10～20mに過ぎなく、それら一日の工程を約500mの調査範囲にわたって繰り返し実施した。

また、本調査区は直線状ではなく平面形は、逆Ｚ字状を呈している。そのため、方眼による地区割りの使用は広範囲に及ぶため実施できなかった。そのかわりパイプラインの工事用ポイントNo.４～No.14（50mピッチ）をそのまま使用して、平面図（1/50）や断面図（1/20）を作成した。

第２節　基本層序（fig．５，６）

土層の堆積については、調査区が広範囲に及ぶため明確にしえないが、fig．５～６にまとめた。

細かい説明は省くが、基本的には上からアスファルト、路床、旧耕土、床土、近世に相当する黄褐色系粘質土、中世の包含層と考えられる灰褐色系粘質土があり、部分的にあるいは遺構の埋土として暗灰色粘質土が堆積している。なお、地山面の高さは、No.５付近でT.P.＋31.7m、No.14付近でT.P.＋29.5mであり、その落差は約2.2mをはかる。

1．**上之郷遺跡**	2．三軒屋遺跡	3．日根野遺跡	4．山出遺跡	5．岡口遺跡	6．小塚遺跡
7．中嶋遺跡	8．白水池遺跡	9．十二谷遺跡	10．丁田遺跡	11．大坪遺跡	12．市堂遺跡
13．北之前遺跡	14．野之宮遺跡	15．宮ノ前遺跡	16．垣外遺跡	17．八王寺遺跡	18．西ノ上遺跡
19．川原遺跡	20．向井山遺跡	21．笹ノ山遺跡	22．母山遺跡	23．梨谷遺跡	24．熊野街道
25．俵屋遺跡	26．末廣遺跡	27．安松遺跡	28．長滝遺跡	29．植田池遺跡	30．郷之芝遺跡
31．机場遺跡	32．棚原遺跡	33．南中安松遺跡	34．岸ノ下遺跡	35．中菖蒲遺跡	36．岡ノ崎遺跡
37．ダイジョウ寺跡	38．長滝古墳群	39．諸目遺跡	40．禅興寺跡	41．向井代遺跡	42．向井池遺跡
43．意賀美神社	44．別所北遺跡	45．別所遺跡	46．兎田遺跡	47．三軒屋遺跡	
48．フキアゲ山東遺跡	49．兎田古墳群	50．新家古墳群	51．岩の前遺跡	52．中ノ川遺跡	

fig. 3　遺跡分布図（S＝1/25,000）国土地理院複製図による

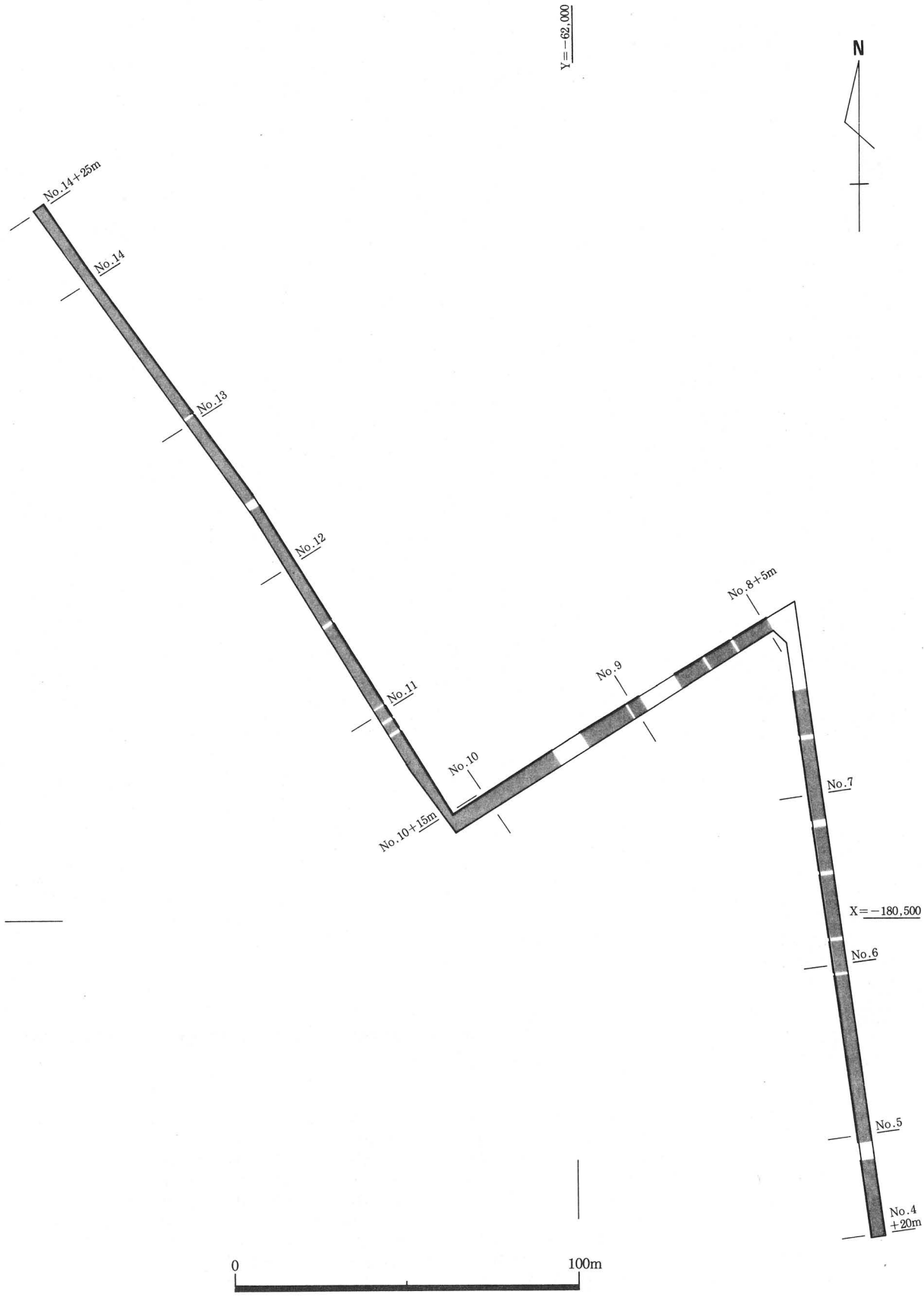
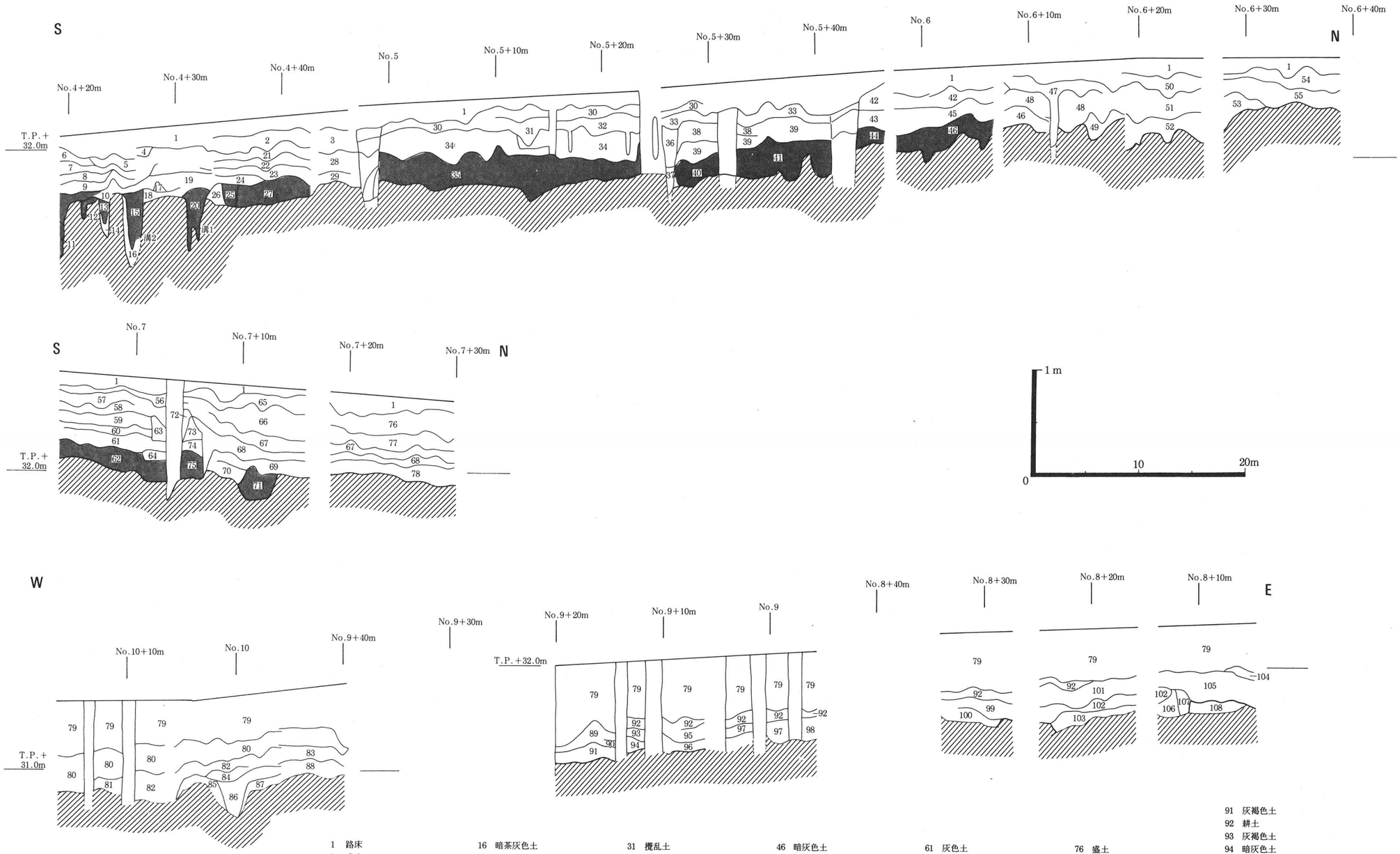
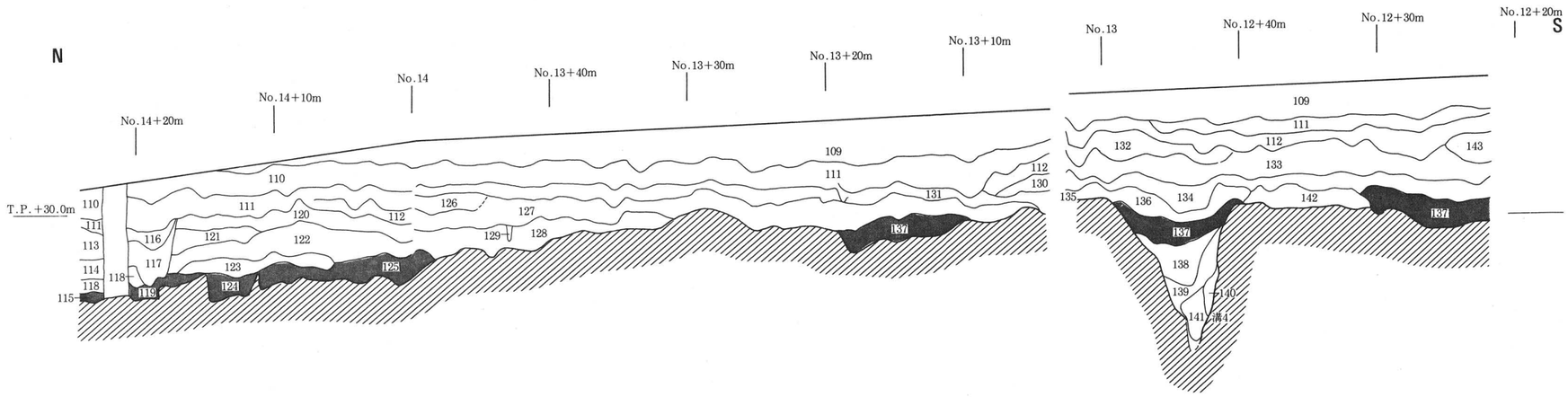

Y=−69,000
N
No.14+25m
No.14
No.13
No.12
No.11
No.10
No.10+15m
No.9
No.8+5m
No.7
X=−180,500
No.6
No.5
No.4
+20m
0
100m

fig. 4　調査区位置図



1 路床
2 盛土
3 白色粘土
4 ?
5 攪乱
6 攪乱
7 灰色土
8 黄灰色土
9 暗灰色土（マンガン混じり）
10 暗茶灰色土
11 暗黄色土
12 暗黄色土
13 暗灰色土
14 淡灰茶色土
15 黄灰色土
16 暗茶灰色土
17 ?
18 暗灰色粘土
19 灰褐色土
10 暗灰色粘土
21 盛土
22 旧耕土
23 灰褐色土
24 黄灰色土
25 暗灰色土
26 暗灰色土
27 暗灰色砂礫
28 旧耕土
29 黄灰色土
30 耕土
31 攪乱土
32 盛土
33 床土
34 黄灰色土
35 暗灰色砂礫
36 攪乱
37 ?
38 灰茶色土
39 暗灰色土
40 灰茶色砂質土
41 暗灰色粘質土
42 耕土
43 灰色土
44 灰茶土
45 灰茶色土
46 暗灰色土
47 攪乱
48 黄灰色土
49 ?
50 攪乱
51 黄灰色土
52 茶色粘土
53 灰褐色土（砂混じり）
54 攪乱
55 攪乱
56 盛土
57 盛土
58 盛土
59 盛土
60 床土
61 灰色土
62 暗灰色土
63 攪乱
64 ?
65 盛土
66 盛土
67 耕土
68 灰色土
69 黄灰色土
70 灰色土
71 暗灰色土
72 アスファルト
73 攪乱
74 黄色土
75 暗灰色土
76 盛土
77 盛土
78 淡黄色土
79 路床
80 盛土
81 灰褐色土
82 攪乱
83 耕土
84 ?
85 黄色粘土
86 暗灰色粘土
87 黄色粘土
88 暗灰色粘土
89 耕土
90 ?
91 灰褐色土
92 耕土
93 灰褐色土
94 暗灰色土
95 灰色粘土
96 灰色粘土
97 茶褐色土
98 黄色土
99 灰褐色土
100 灰褐色土
101 黄灰色土
102 青灰色シルト
103 黒灰色土
104 酸化土
105 灰褐色土
106 黒灰色シルト
107 淡灰色シルト
108 黄褐色粘質土

fig. 5　基本土層図①



109 路床
110 路床
111 耕土
112 床土
113 茶灰色粘質土
114 灰褐色土
115 暗灰色粘土
116 黄色粘土ブロック
117 灰色砂質土
118 整地土
119 暗灰色粘土
120 灰褐色土
121 ?
122 灰褐色土
123 黄色粘土（整地土）
124 黒灰色粘土
125 暗灰色粘土
126 黄灰色土
127 黄灰色土
128 灰褐色土
129 ピット埋土
130 黄褐色土
131 ?
132 黄茶色土
133 灰褐色土
134 黄灰色土
135 灰色粘土
136 灰白色粘質土
137 暗灰色土
138 暗灰色土
139 暗灰色シルト
140 黒色粘土ブロック
141 灰白色砂
142 黄灰色土
143 円礫
144 黄茶褐色土
145 灰褐色土
146 黄灰褐色土
147 黒灰色土・灰褐色土
148 暗茶色土
149 灰色砂
150 茶色砂
151 灰色砂
152 暗灰色細砂
153 黄灰色土
154 灰黄色土
155 暗灰色粘土
156 灰色砂質土
157 暗灰色粘土
158 暗灰黄色土
159 灰褐色土
160 灰黄褐色土
161 灰黄褐色土
162 灰黄褐色土
163 暗灰色土

fig. 6　基本土層図②

第３節　検出された遺構と遺物（fig. 2，４～７）

１．遺構（fig. 2，４～６）

調査の対象深度は、埋管設置の底面レベルの関係上、地山まで達していないところが大部分であり、平均で道路面から１m弱である。そのため、平面調査を実施した調査区は限定されており、大部分は断面図作成のみが主目的になった。次に検出された主要な遺構を説明する。

№.２＋20～35m付近では、溝、落ち込み、ピット、土坑などが検出されている。溝は、東西方向に二本検出された。北側の溝１は、幅約1.5m、深さ約0.55mをはかる。埋土内より、板材が出土している。南側の溝２は、幅約1.1m、深さ約0.4mをはかる。また、№.２＋20mでは南側へ向かう落ち込みが検出されている。二本の溝の周辺では、径0.3～0.55mのピットが６ヵ所以上検出されている。いずれの遺構も出土遺物から13世紀頃のものと考えられる。

№.11＋30m付近では、ほぼ東西方向に溝３が検出されている。幅約２m、深さ約0.6mをはかる。北側の溝肩が一部段状になっている。また、№.12＋40m付近でも、大規模な溝４が東西方向に検出されている。その規模は幅約6.2m、深さ0.7m以上をはかる。底面は深いので確認していない。北側の溝肩が三段になっており、テラスを形成している。溝底面には黒褐色系の粘質土や細砂が堆積している。層内からは黒色土器の小片が出土している。11世紀まで遡るものであろうか。条里に関連するものかもしれない。

２．遺物（fig. 7）

今年度の調査で出土した遺物には、瓦器（椀・皿）、土師器皿、捏鉢（瓦質・土師質）、甕、土師器高杯、土錘などがある。

１～17は瓦器椀及び瓦器皿である。１は口縁部が上方にやや内湾しながら伸び、端部を尖り気味におさめる。高台は紐状を呈している。復元口径13.7㎝、同底径3.4㎝、同器高3.5㎝をはかる。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はユビオサエ、内面には横方向の暗文が遺存している。３は浅い皿状の瓦器椀である。復元口径は13.8㎝をはかる。口縁部外面は強いヨコナデのため、若干凹んでいる。体部外面はユビオサエ、内面は横方向の暗文が遺存している。４は口縁部が外上方に伸び、端部を丸くおさめる。復元口径は14㎝をはかる。口縁部外面は二段にわたってヨコナデを施す。体部は外面がユビオサエ、内面は摩滅しているが、暗文が施されていたものと考えられる。なお、口縁部内面には沈線の痕跡がみられる。５は口縁部が内湾気味に上方に伸び、端部を丸くおさめる。体部は丸みを帯びている。復元口径は14.2㎝をはかる。口縁部内外面はヨコナデ、体部は外面がユビオサエ、内面には暗文が施されている。なお、口縁部内面には沈線の痕跡がみられる。６は口縁部が外上方に真直ぐ伸び、端部を丸くおさめる。復元口径は14㎝をはかる。器壁は分厚い。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はユビオサエ、同内面には横方向の暗文が施されている。８は口縁部が外上方に伸び、端部を丸くおさめる。復元口径は13.5㎝をはかる。口縁部内外面がヨコナデ、体部外面はユビオサエ、同内面は摩滅のため明確ではない。16は瓦器皿である。復元口径８㎝、同器高1.55㎝をはかる。口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面はナデ。一

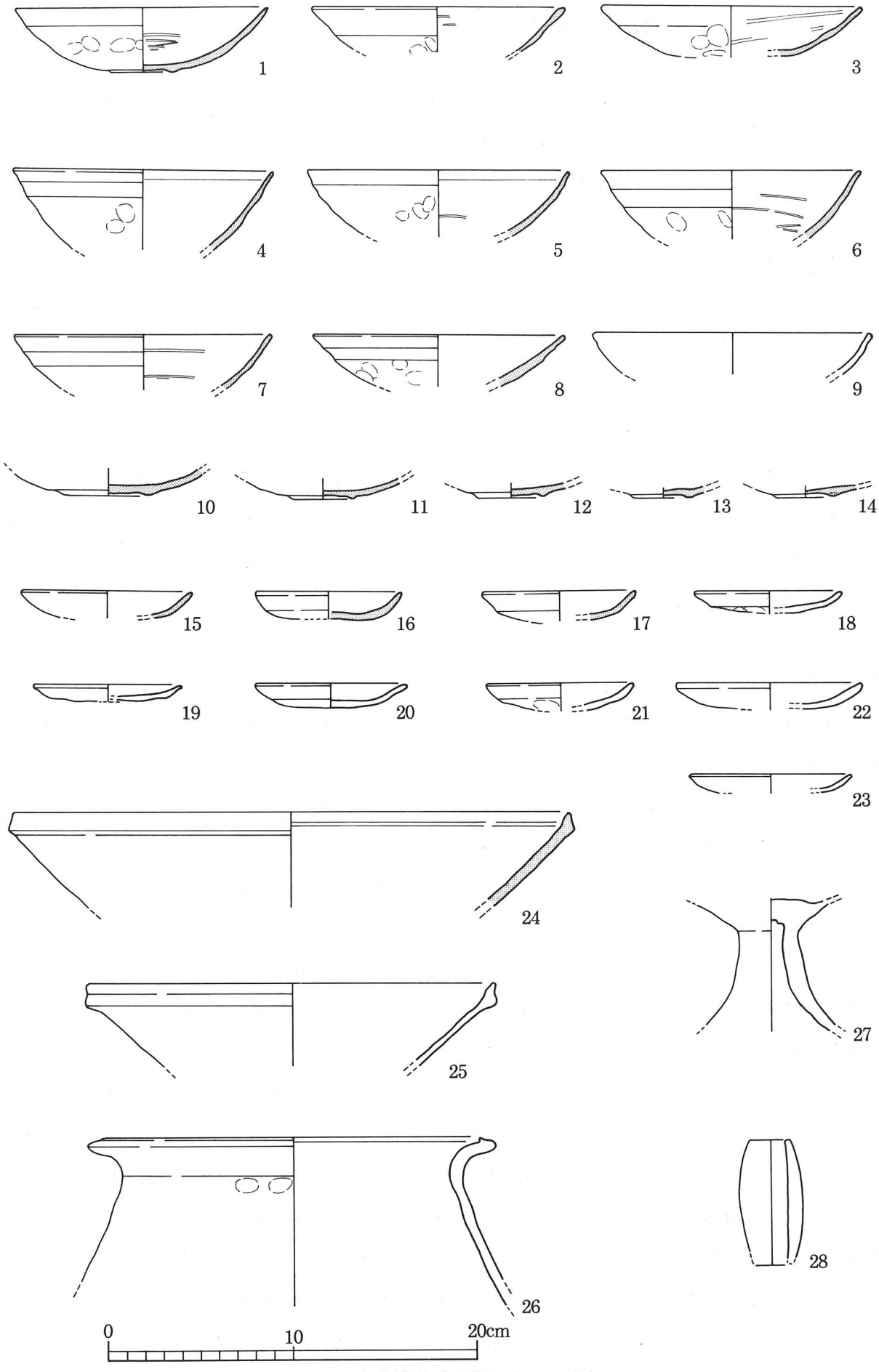


fig. 7　出土遺物実測図（S＝1/3）

部、灰が付着している。17も瓦器皿である。復元口径8.2㎝、器高1.6㎝をはかる。口縁部内外面がヨコナデ、体部外面はナデ。一部ユビオサエが遺存している。18～23は土師器皿である。20はほぼ完形品になる。口径約8.2㎝、器高約1.3㎝をはかる。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はナデ及びユビオサエ、同内面はナデ。22はやや大型の皿である。復元口径9.8㎝、同器高1.4㎝をはかる。口縁部内外面はヨコナデ、体部は調整が摩滅しているので明確ではない。24は瓦質の捏鉢である。復元口径30㎝をはかる。口縁部は断面三角形状を呈し、端部は尖り気味。口縁部内面には幅２～４㎜の凹線がみられる。調整は内外面ともヨコナデを施す。25は土師質の捏鉢である。復元口径22㎝をはかる。口縁部は断面三角形状を呈し、端部外面はやや凹んでいる。調整は内外面ともヨコナデを施す。26は土師器の甕である。復元口径20.4㎝をはかる。口縁部はくの字状に屈曲し、端部を丸くおさめる。また、口縁端部内面をつまみあげることによって、凹線がめぐる。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は一部ユビオサエ、同内面はナデ調整。27は土師器高杯の脚部の破片である。残存器高7.1㎝をはかる。調整は摩滅しているため、全くわからない。古墳時代のものであろうか。28は土師質の棒状土錘である。ほぼ完形で、径約2.1㎝、器高約6.8㎝をはかる。調整は摩滅しているため、全くわからない。

第４章　まとめ

前章までにおいて、平成９年度の上之郷遺跡の調査成果を概観してきたが、ここでは簡単にまとめておきたい。

さて、調査地点の標高は、始点のNo.４付近がT.P.＋32.5m、終点のNo.14付近がT.P.＋29.7mと2.8mの落差がある。さらに、調査区の東側に位置する上之郷小学校付近ではさらに高く、T.P.＋35.7mをはかる。このことから、他の泉南地域同様、当地の地形は東南から北西に傾斜していることがわかる。この東南－北西の傾斜は、和泉山脈から大阪湾へ向かう方向であり、条里地割もこの方向に規制されている。次に、遺構の分布については、南端部のNo.４付近ではピットなどが集中していた。その地点から上之郷小学校までの約200mの範囲（現上之郷集落の中心部）には、中世の集落が展開しているのだろうか。それに引き替え、調査区の北部No.10～14周辺では、東西方向の溝しかなく、ピットなどはみられなかった。これらの溝は、現在の条里地割の方向にも合致するものがあり、当地での条里施行時期の一資料になるであろう。要約すれば、調査区の南半部は集落域、北半部は生産域に大別できようか。何分検出された遺構は、幅1.2mの調査区内であるため、溝か、土坑か、落ち込みかの判断もつきかねるものが多かった。そういった意味で、今回の調査は試掘調査の連続のようなものであり、まさしく線的な調査でもあった。今後の周辺の面的な調査に期待したい。ただ、これらの小規模な調査の積み重ねが、古代～中世にかけての上之郷遺跡の性格を徐々に明確にしていくであろうことはいうまでもない。

なお、調査の実施及び本書の作成にあたっては、鈴木陽一、出合　明、阿南辰秀、伊藤慎司、北村美紀、加瀬洋子、川原清晃、高野綾子、堀池多嘉子、堀口友里、森オリ江の諸氏からは協力と援助をうけた。記して感謝する。（上林）

報　告　書　抄　録

ふりがな	かみのごういせきはっくつちょうさがいよう・II
書名	上之郷遺跡発掘調査概要・II
副書名	府営水質保全対策事業泉佐野地区に伴う発掘調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	上林史郎、地村邦夫
編集機関	大阪府教育委員会　文化財保護課
所在地	〒540－8571 大阪府大阪市中央区大手前２丁目　☎06(941)0351
発行年月日	西暦　1998年３月31日

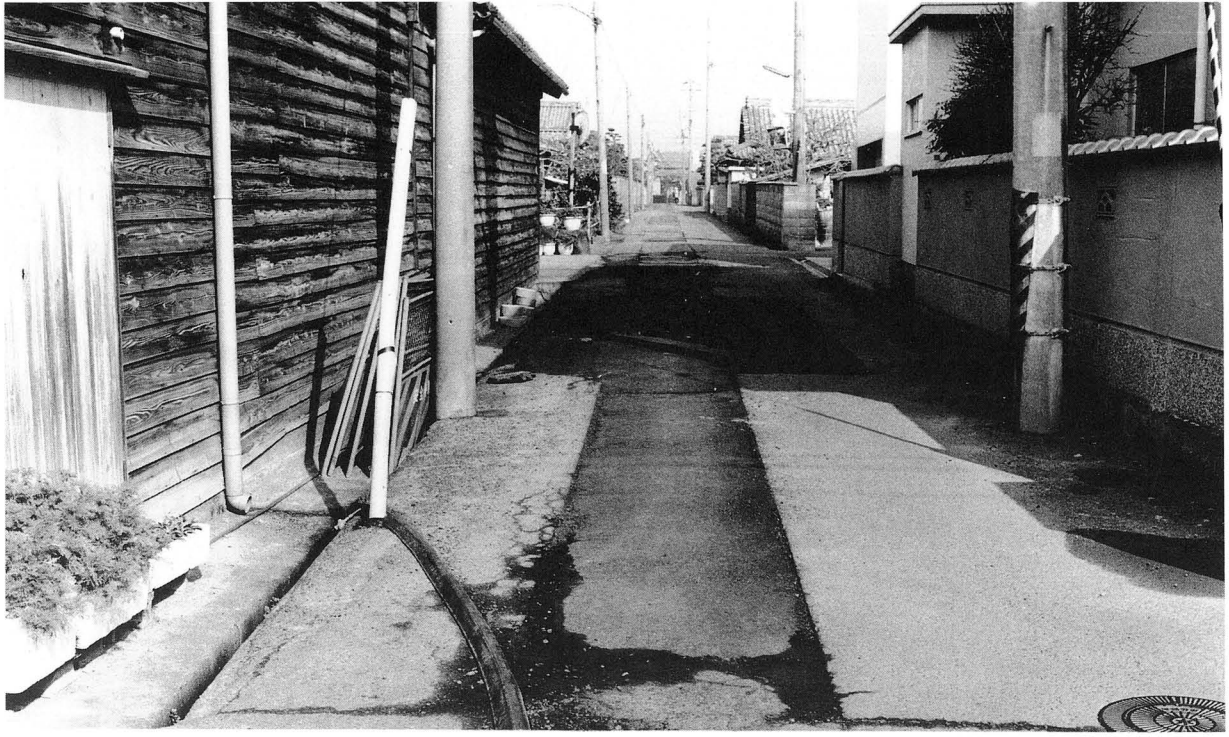
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
かみのごういせき 上之郷遺跡	いずみさのし 泉佐野市 かみのごうちない 上之郷地内	27213	64	34° 22′ 15″	135° 19′ 29″	1997年11月１日 ～ 1998年３月31日	600m²	府営水質保全対策事業泉佐野地区に伴う工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上之郷遺跡	集落跡	平安～鎌倉	溝・土坑・落ち込み・ピット	須恵器・土師器・瓦器・陶磁器	

PLATE

上之郷遺跡周辺斜め写真（上が北西）

PL. 1
遺構①



No.4+25m付近全景
（南から）

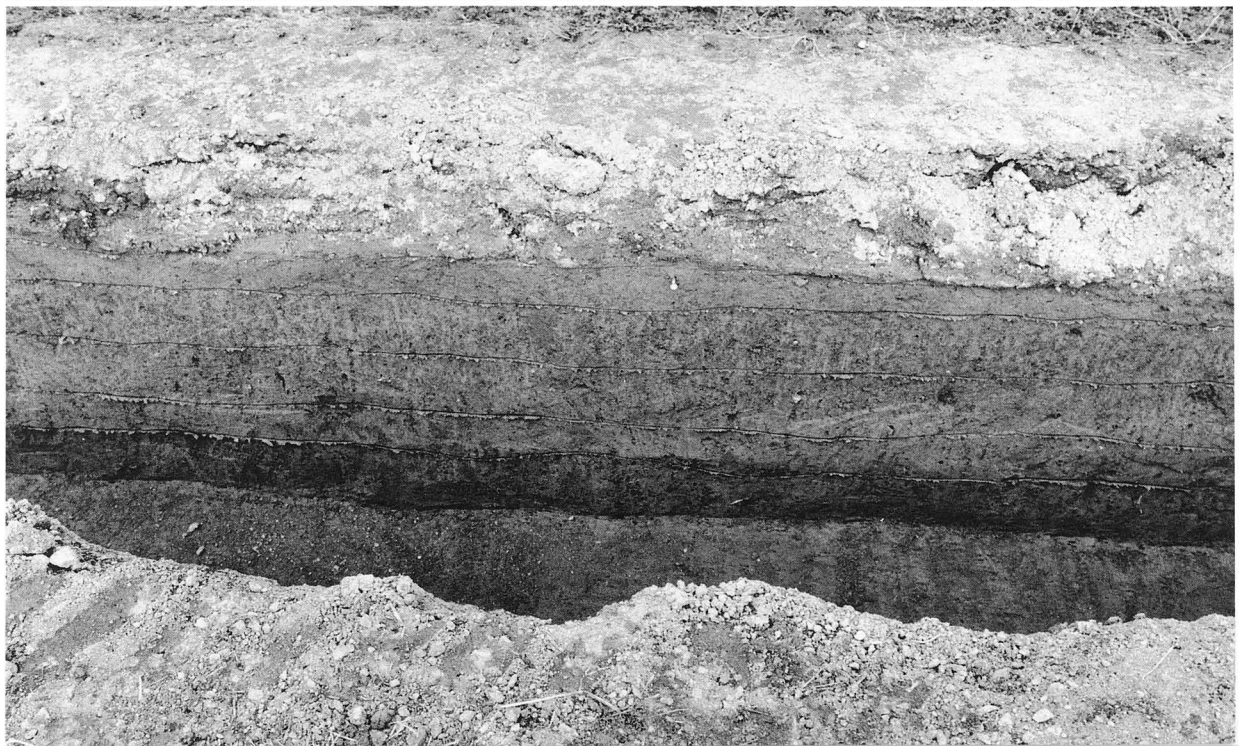
No.4 +30m付近
落ちこみ・ピット
（東から）

No.4 +25m付近
溝1断面
（東から）

ＰＬ．２
遺構②

No.４＋20m付近
ピット
（東から）

No.11付近全景
（北から）



No.11＋35m付近
溝３断面
（西から）

PL. 3
遺構③

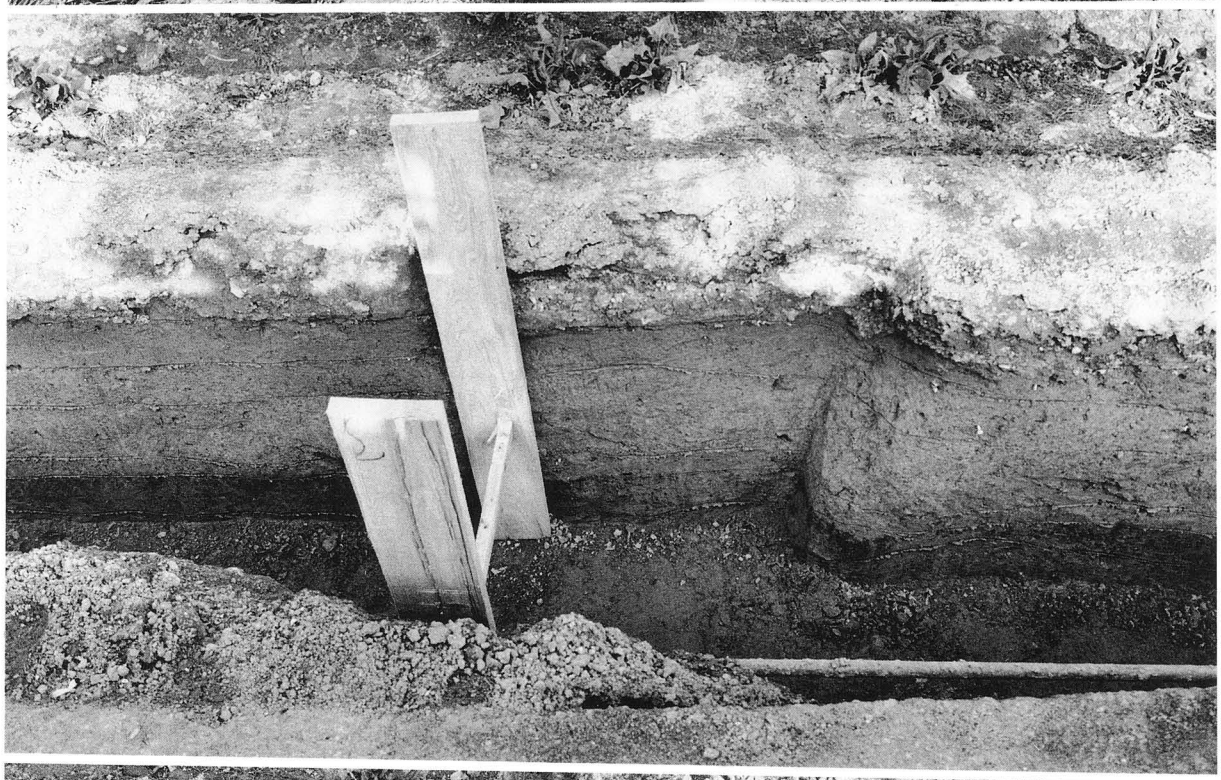
No.11＋30m付近
溝4
（北から）

No.11＋30m付近
溝4
（南から）

No.11＋30m付近
溝4断面
（西から）

PL. 4
遺構④

No.13付近全景
（南から）



No.13＋20m付近
断面
（西から）

No.13＋25m付近
断面
（西から）

3

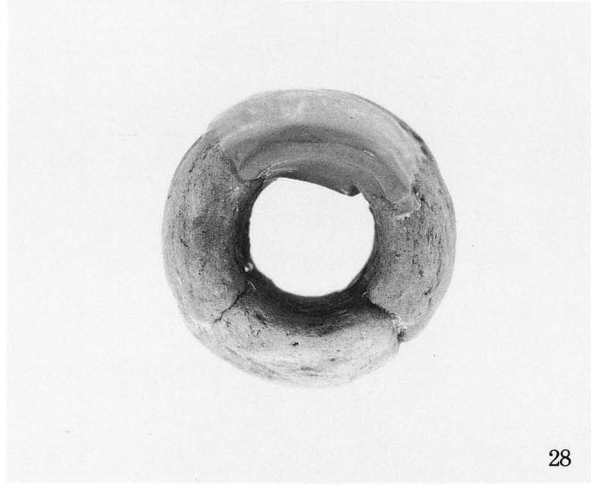
16

19

20

27

28

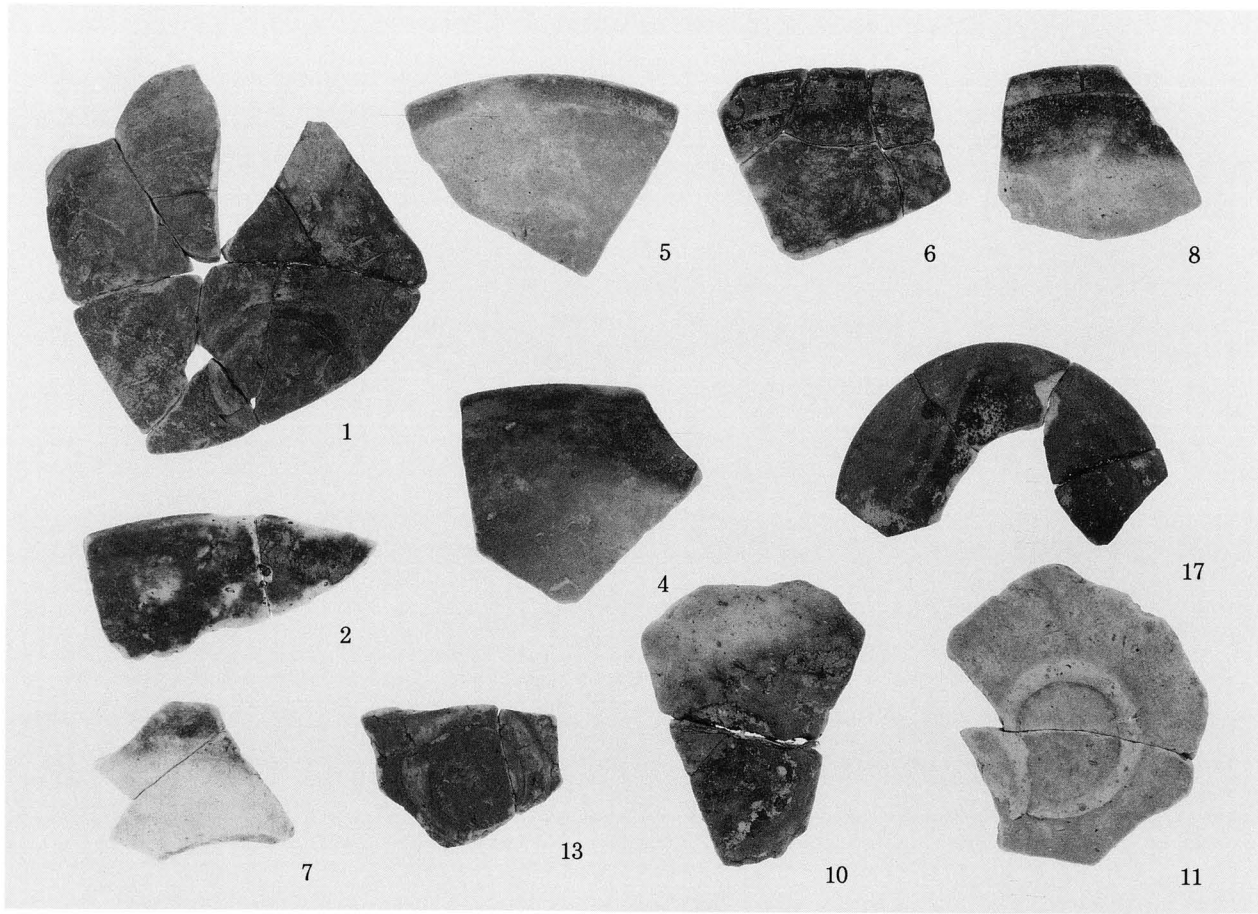
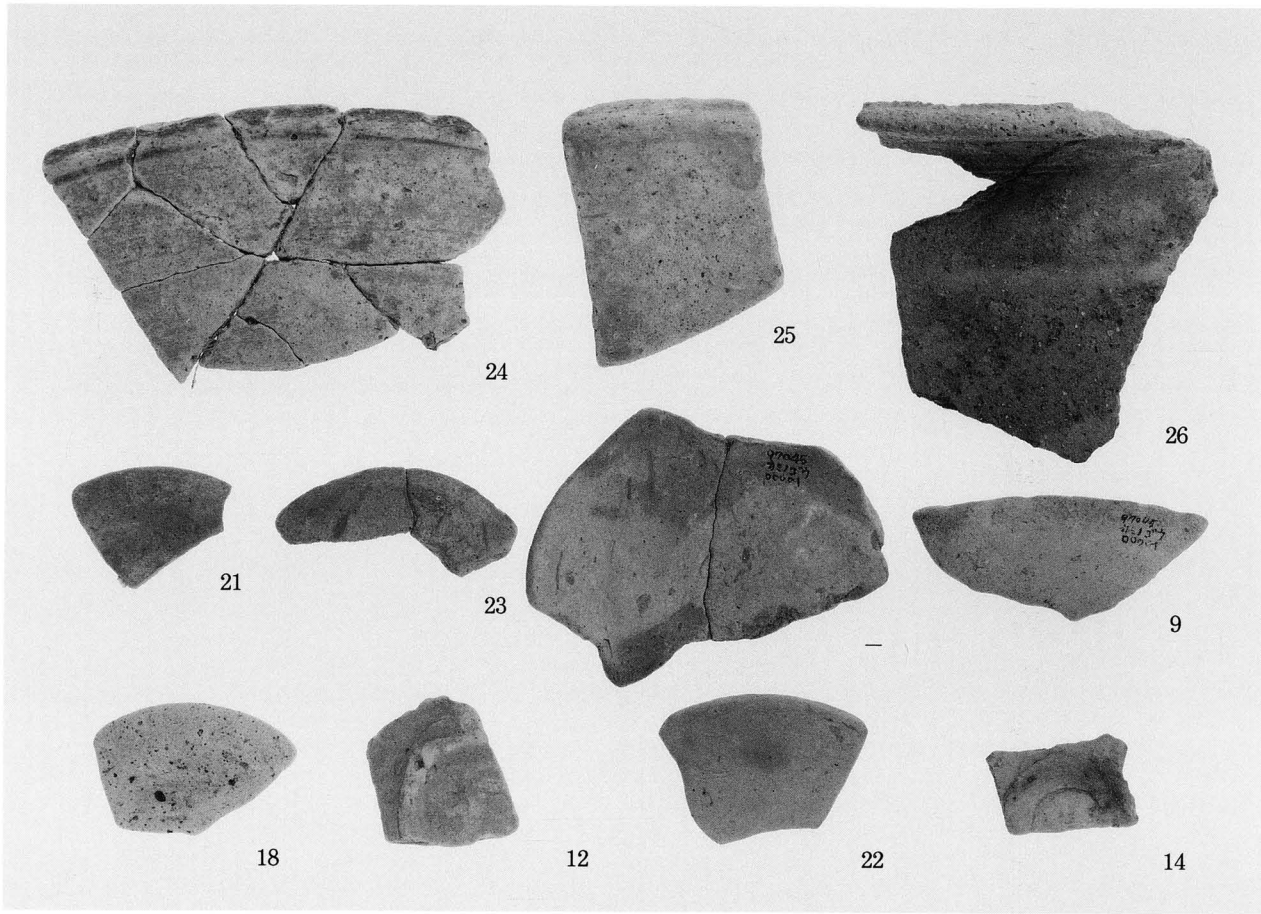

28

各遺構・包含層
出土土器①

PL. 6
遺物②

各遺構・包含層
出土土器②

瓦器



土師器他